

目次

宮沢賢治とてくのはづの生き方

序

..... 3

第一話

宮沢賢治と本当の幸福（前半）

..... 13

まえおきの話	14	賢治と森氏の出会い	28
りんごの皮をなめている愚	15	ひょうたんから駒、清六氏に会う	31
物質に幸福を求める愚	17	賢治の四次元の世界とは	32
リンゴの中味を食べた宮沢賢治	18	童話『銀河鉄道の夜』と、世界法則	34
見えない世界を見た宮沢賢治	19	けなげな少年ジヨパンニ	35
森荘巳池氏を訪ねる	22	銀河鉄道の旅	37
森氏のとつておきの話	23	銀河鉄道の風景	38
鬼神の話	26	神出鬼没の乗客たち	39

第二話 霊を見ない者は幸福にならない(前半)

宮沢賢治の作品の素晴らしさ	90	死ぬ時に一生がわかる	119
賢治の本当の幸福	92	因果律(カルマの法)	121
霊を見る目	95	人生の出来事の裏に靈魂の働きあり	125
賢治の生活と死	97	不断の学習が必要	129
賢治愛用の書棚	100	このままだと世界は滅ぶ	130
幸福と不幸の原理	102	近代心靈研究の発生	131
子供のしつけ	107	フォックス家事件	133
人のせいにするな	108	心靈研究とその神界計画	135
明るい面を見る	109	高級の靈界通信とその目的	136
いろいろある死後の世界	113	救世主再臨とは	140
人は唯物主義者	114	霊を知らない、幸福にならない	141
死後の裁き	116		

第四話 霊を見ない者は幸福にならない(後半)

143

Q1 霊的体験について……………144

Q2 心霊治療について……………147

Q3 日常の小さな親切……………151

Q4 子供のしつけは親の努力……………153

Q5 大切なのは魂の教育……………157

第五話 人間とその霊的真理(前半)

165

今は変革の時代……………166

霊の問題は奥が深い……………167

スピリチュアリズムと、……………

古来の聖者の教えと真理はひとつ……………168

なぜ古来の宗教に狂いが生じたか……………169

先ず「人間とは何か」を知れ……………171

人は死んでも死なない……………173

「人は神」である……………175

人間は霊と肉体の二重性……………176

人間には更に媒体がある……………177

媒体の働き……………180

媒体は心の波動の通信機……………181

心は「波長の法」に従う……………183

人間の心は霊と通じ合う……………184

第六話

人間とその靈的真理（後半）

人は靈からのささやきを、自分の心と想う なぜ人間は鬼っ子になるか……………	185	病気になる人は、心がけが悪い人か？……………	195
鬼っ子は不幸のコース……………	187	キリストも赤ん坊では、何もできない……………	197
幸・不幸の背後に、靈の働きあり……………	191	大人の神になるために、人生はある……………	199
自分の心がけが、自分の人生をつくる……………	194	艱難は人が神になるための、神の愛……………	201
		「靈主肉従」の真理……………	202
何事も人のせいにするな……………	208	肉体さえも自分が作った……………	224
人の媒体は記録コンピュータ……………	210	何事も人のせいにならない、 これが進歩の原点……………	227
現在は過去の自分の総決算書……………	212	人生の道は、感謝、そして奉仕……………	229
カルマを消すために再生する……………	213	愛がすべてを変える……………	232
環境と運命は自分が選んだ……………	216	愛は自分をも変える……………	234
人の作るいろんなカルマ……………	220	自己責任↓苦難に感謝↓奉仕、 これが進歩の原理……………	235
カルマは神になる進歩のためにある……………	222		

母親のする神のような仕事……………236
子供の教育のポイント……………240

子供の教育とは、母親の実践……………242
——
本当の世界平和とは何か……………244

本書について——テクノボー二人

熊谷えり子……………252